

厚生労働科学研究費補助金 がん対策推進総合研究事業(がん政策研究事業)【松本班】
小児がん拠点病院を軸とした小児がん医療提供体制のあり方に関する研究
分担研究報告書

研究分担者 足立壮一 京都大学医学研究科人間健康科学系専攻

研究要旨

小児がん医療提供体制のあり方の実態調査の一つとして、治療中の小児がん患者の当院小児科への紹介もしくは当院から他院への移動の実際を調査したところ、このような例は極めて限られており昨年度は0件であった。一方、当院におけるAYA世代は小児科が関与しない例が相当例存在し、治療水準の向上や療養環境の改善が必要である。

A. 研究目的

小児がん患者の移動の実態を調査し、適切な支援体制を構築するために必要なデータを収集する。

B. 研究方法と結果

下記項目につき検討した。

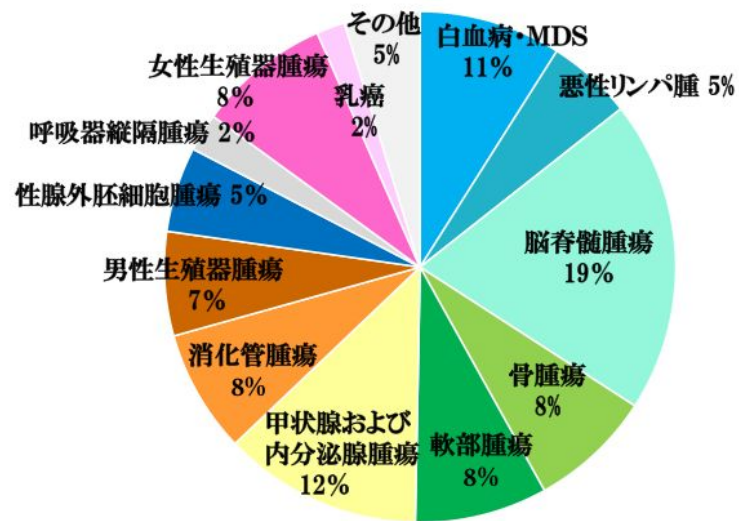
1) 小児がん患者の移動状況

本院小児科において診断し治療開始した小児がん患者がその治療途中で他病院へ転院した例や、反対に他病院で診断し治療を開始され、当科へ転院して治療を行った例は極めて限られており、本年度では該当症例はなかった。一方で、当院における15歳以上のいわゆるAYA世代のがん患者が小児科以外で相当数診療されていることが判明した。

2) 当院におけるAYA世代のがんの実態

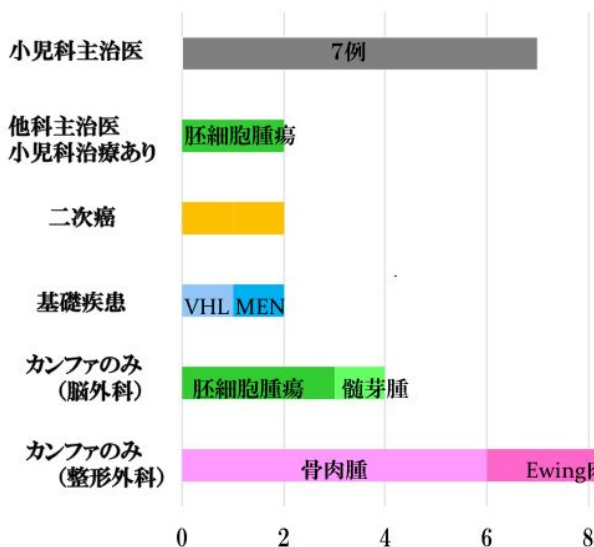
症例：2008年1月1日から2012年12月31日の5年間に悪性新生物(ICD-10 に準拠、上皮内癌を除く)と診断、入院加療を行った診断時年齢15歳以上29歳以下の患者数は170症例あり、男性83例、女性87例であった。

内訳：



小児科の関与

うち30症例において小児科が診療に携わった。
30症例のうち、16例が15-19歳の症例であった。



3) 当院における各科の診療連携の現状

特に稀少がんなどの症例では科の枠を越えて、横断的な院内カンファレンスを適宜開催し、情報交換、治療方針の検討を行っている。小児科では特に整形外科、脳神経外科/放射線治療部とは毎週ないし毎月合同カンファレンスを行っており、AYA 世代までを含めた診療連携を行っている。小児外科、泌尿器科、眼科、耳鼻科、呼吸器外科とはユニットを形成し、適宜カンファレンスを持ち、情報共有している。

AYA 世代の患者に対応するため、成人血液内科病棟に 1 床、他の成人病棟に 2 床の小児科ベッドを確保している。

C. 考察

小児がん拠点病院に選定後、小児がん診療・支援・研究合同会議を設立し、小児がんユニットをはじめとして AYA 世代や書に緩和など様々な課題に対応した小委員会を立ち上げた。小児科以外の科が初診となった小児がん患者はこの委員会の繋がりから小児科が診療に携わる機会がもてたが、特に AYA 世代のがん患者は必ずしも小児科にコンサルトはされずに診療が行われた。そのうち少なくとも一部の患者では学業支援や療育環境など、本院が有するリソースが適切に利用されたとは言いが

たい。今後、AYA 世代のがん患者に対する小児科の連携の必要性、有用性を院内ならびに近隣のがん診療病院に周知し、同世代のがん患者への診療体制を強化していく。そのために(1) AYA 世代の初発・再発例の診療のための成人病棟における小児科専用病床のさらなる増床、(2)院内の合同カンファレンスへの参加を通じた AYA 世代がん患者の特殊性の周知を行い、AYA 世代のがんの治療水準の向上、療養環境の改善を目指していく予定である。

D. 健康危険情報 4 例

該当なし

E. 研究発表

なし

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案
該当なし
3. その他
該当なし